

第6-2号

耕人

『耕人塾』

塾長 木村 民男

平成29年7月15日(土)

「実践活動」で世界に誇れる石巻地域の土台をつくろう！

6月24日(土)7:30~8:30、石巻駅前から中瀬周辺までのゴミ拾いを実践しました。塾生・指導員・学生の他、環境保全リーダーの会や石巻青年会議所、家族や地域の方も含めて50人を超える方々に集まっていただきました。私からは始まる前に2つのこととお話ししました。一つは、『耕人塾』での「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」の活動が市民に広がり、さらに住みよい石巻地域になっていくこと。二つ目は、この実践活動を喜んで楽しんでやること、です。その後、立町通り・駅裏・裏通りなど4つのグループに分かれて中瀬公園まで、約1時間のゴミ拾いをしました。

『耕人塾』での実践活動を「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」にしたのには大きな理由があります。数年前にブラジルで開催されたサッカーワールドカップで日本は初戦敗退しましたが、サポーターが会場のゴミ拾いをし、日本の文化は素晴らしいと世界から絶賛されました。しかし、石巻地域はどうでしょうか。残念ながらいたるところにゴミが落ちています。道路や空き地などを見るとタバコの吸い殻や空き缶が捨てられていたり、弁当の空き箱が袋のまま捨てられていたりすることもあります。山も海も川もある風光明媚な土地なのにとっても残念に思います。

右の写真上は牡鹿半島小網倉付近の県道脇のゴミです。下は鹿又曾波神付近の嘉右衛門堀のゴミです。ゴミ拾いをしている人もたくさんいるのに、またすぐこのようになってしまいます。ゴミを捨てて平気だという人は、普段の生活の中でも自分中心の考え方が多いのではないかと思います。それは「あいさつ」や「清掃」でも同じことだと考えています。自然を大切にすの謙虚さや周りの人達に対する感謝の心を普段の生活の中で形に表していくことが必要なのだと思います。



東日本大震災から6年が経過し、後3年で東京オリンピックが開催されます。「聖火リレーのスタートを石巻から」という目標を掲げている石巻地域には、国内外から多くの方々が訪れると予想されます。その時に、東日本大震災の最大の被災地が、明るいあいさつで満ち、駅も街も清掃が行き届き、ゴミが一つも落ちていない「世界に誇れる石巻地域」になっていたら素晴らしいですね。『耕人塾』の実践活動はその土台づくりです。この活動を今年石巻地域全体に「発信！」していきたいと考えています。



「ポイ捨てのない世の中に」(三浦花梨さん、仙台市太白区・中学生13歳)

河北新報 H29.6.15(木)「声の交差点」に掲載された文章(要約)を紹介します。「小学校低学年の時だったと思う。公園への遠足の帰り、道端にたばこの吸い殻などのごみが落ちていた。これはいけないと思い、友達と拾うことにした。学校に着く頃には、両手で持てないくらいの量になっていた。自分がある道をきれいにしたという達成感があり、とても気持ちよかった。しかし1週間もしたらまた同じようになっていた。ごみがない状態を維持するにはポイ捨てをする人がいなくなると思う。自分ができるのは小さなことだが、この体験を多くの人に知ってもらい、ポイ捨てについてももう一度考えてほしい。私はこれからも、ごみを拾い続けていく。拾うごみがいつかなくなることを信じて。」

『耕人塾』での実践活動を他の地域でもやっていることを思うと嬉しいですね。みなさんの行動が必ず住みよいまちにしていく力になると信じています。